

ところ会員 各位

ところ会 1 月行事案内

平成 26 年度、第 1 回テーマ: 日本橋七福神をめぐる

年明けの第一回目のテーマとして、日本橋七福神をめぐる行事を下記の通り案内します。
参加不参加の連絡は平成 26 年 1 月 10 日(金)迄に連絡願います。

記

日 時: 平成 26 年 1 月 24 日(金)8 時 30 分集合、雨天決行

集合場所: 西武池袋線・所沢駅、特急券売り場前

※:【西武池袋線】所沢(快速池袋行 8:42 発)⇒池袋 9:15 着⇒【東京メトロ丸の内線】池袋⇒大手町

コース:

大手町(9:30)⇒常盤橋公園(常盤橋門の跡)⇒貨幣博物館 9:50(30 分館見学)⇒一石橋迷子しらせ石標(満よひ子の志るべ)⇒榮太樓總本舗⇒日本橋(道路元標)⇒小網神社(福祿寿・瓣財天)⇒茶の木神社(布袋尊)⇒松島神社(大国神)⇒水天宮仮宮(瓣財天)⇒笠間稲荷神社(寿老神)⇒末廣神社(毘沙門天)⇒昼食(中華料理 12:30~13:30)⇒梶森神社(恵比寿神)⇒十思公園⇒寶田神社(恵比寿神)⇒立寄【小津和紙】⇒三越日本橋店 15:30 頃到着、解散

昼食処: 香港美食園(中華料理)

東京都中央区 3-11-3 金星ビル ☎03-3249-2303

参加費用: 昼食代¥1,500~1,750、交通費は自己負担

見どころ簡単ガイド

■常盤橋公園 (旧常磐橋・常盤橋門跡・常盤橋・渋沢栄一像)

□旧常磐橋

常磐橋は、天正 18(1590)年の架橋と言われ東京では最も古い橋のひとつです。常盤橋門の見附橋として活躍しました。現在の橋は明治 10(1877)年に建造されましたが、老朽化は激しく、車道橋の役割は現在の常盤橋に譲りました。現在では人が渡るばかりとなっていました。東日本大震災以降は立ち入り禁止となっています。

□常盤橋門跡

常盤橋門は、かつて江戸五口のひとつで江戸城外郭の正門として大いに栄えましたが、明治 6(1873)年に撤去されました。門跡は、国の記念物(史跡)に指定されています。また、この門跡は現在、常盤橋公園内にあり、近くには渋沢栄一像があります。

□常盤橋(現)

旧常磐橋が狭かったこともあり、旧常磐橋に代わる幹線道路用の橋として、昭和元(1926)年に架けられた石橋です。常盤橋(現)は、平成 19(2007)年 3 月 28 日に千代田区景観まちづくり重要物件に指定されました。

□渋沢栄一像

渋沢栄一氏は天保 11(1840)年に現在の埼玉県深谷市で生まれました。将軍徳川慶喜に仕えた後、明治維新を経て大蔵省に入省、大蔵省勤務を経て、第一国立銀行の初代頭取を務めるとともに、経済・教育・社会事業等の振興にも尽力し、「近代日本資本主義の生みの親」「産業・

「経済界の父」とも呼ばれています。像は常盤橋公園内にあり、近くには常磐橋・常盤橋門跡・常盤橋があります。ります

■貨幣博物館(案内ガイド文より)

貨幣は私たちの生活と密接に関わっており、貨幣そのものや、関連する道具・文書等により貨幣の歴史を研究する事は、文化、社会の変遷を窺い知るための有効な方法であるといえます。

明治末期からの古貨幣収集家・研究家であった田中啓文氏は、わが国の古代から近代に至る貨幣ばかりでなく、中国を中心とする東アジア地域の貨幣ならびに貨幣に関する様々な資料も収集していました。この収集資料が展示・保管されていた博物館が「錢幣館」です。戦局が悪化した昭和19年、戦火による喪失を避けるため、収集資料約10万点は日本銀行に寄贈されました。

現在、日本銀行金融研究所は、この錢幣館の資料を中心として約20万点に及ぶ資料を所蔵し、歴史的、文化的な資料として適切に保管すると共に、こうした資料による研究活動を進めております。貨幣博物館は、これらの資料をより広く公開するため、日本銀行創立百周年(昭和57年)を記念して昭和60年11月に開館し、所蔵資料の中から約5,500点を選び出して展示しております。貨幣そのものや関係資料、あるいは研究成果をご覧いただくことにより、貨幣の歴史や貨幣と文化、社会の関わりを考えていただくきっかけとなれば幸いです。

小手指の島忠の脇の借りている畑から天保通宝が出たと聞きました。耕地の表層と深層を入れ替える天地返しの際に見つかったのでしょう。銭形平次の投銭の寛永通宝や皆様ご存知の聖徳太子の百円札等もありますよ。

■一石橋迷子しらせ石標

安政4年西河岸の家主たちが建立した庶民の告知板です。高さ約1.8メートルの石柱で、正面に朱で「満よひ子の志るへ」、左面に「たつぬる方」、右側に「志らす方」と刻み、年頃、面体、格好、履物、衣類などを書いた紙を貼るようになっています。

□満よひ子の志るべ

江戸期～明治期にかけて付近はかなりの繁華街であり、迷い子が多く出た。当時は迷い子は地元が責任を持って保護するという決まりがあり、地元西河岸町の人々によって安政4年(1857年)2月に「満よひ子の志るべ(迷い子のしるべ)」が一石橋南詰に建てられた。

しるべの右側には「志(知)らす方」、左側には「たづぬる方」と彫られて、上部に窪みがある。使用法は左側の窪みに迷子や尋ね人の特徴を書いた紙を貼り、それを見た通行人の中で心当たりがある場合は、その旨を書いた紙を窪みに貼って迷子、尋ね人を知らせたという。このほか浅草寺境内や湯島天神境内、両国橋南詰など往来の多い場所に数多く設置されたようだが、現存するものは一石橋のものだけである。

昭和17年9月に東京都指定旧跡に指定され、昭和58年5月6日に種別変更され東京都指定有形文化財(歴史資料)に指定されている。

■榮太樓總本舗

株式会社 榮太樓總本舗(えいたろうそうほんぽ)は、東京都中央区日本橋に本店を構える、老舗の和菓子店である。本社は東京都中央区に所在する。

■日本橋

東京都中央区の日本橋川に架かる国道の橋。日本の道路元標があり、日本の道路網の始点となっている。橋梁としては現在19代目にあたる。石造二連アーチ橋で橋の長さ49m、幅27m、設計は米本晋一、装飾様式は妻木頼黄、装飾制作は渡辺長男による。

□道路元標

戦前の道路法では、各市町村に道路の始点となる道路元標の設置を義務付けていた。その場所は概して市役所や県庁などとされていたが、首都たる東京市は江戸時代を踏襲して日本橋を道路元標とした。

現行の道路法では道路元標に関する規定は無いが今日でも橋の中央には「日本国道路元標」の文字が埋め込まれており、裏側には当時の内閣総理大臣、佐藤栄作の名前が刻まれている。橋の袂(たもと)にレプリカが展示されている。現在、日本橋を始点としている国道は、以下の7本である。

☆：国道1号(終点：大阪市・梅田新道)

- ☆：国道 4 号（終点：青森市・青い森公園前）
- ☆：国道 6 号（終点：仙台市・苦竹 IC）
- ☆：国道 14 号（終点：千葉市・広小路交差点）
- ☆：国道 15 号（終点：横浜市・青木通交差点）
- ☆：国道 17 号（終点：新潟市・本町交差点）
- ☆：国道 20 号（終点：長野県塩尻市・高出交差点）

なお、プロペ通りのダイエー側の入り口には所沢の道路元標があります。

■日本橋七福神

- ①**小網神社(福祿寿・弁財天)**・稲荷大神を主祭とし、天文元年(1466 年)に鎮座した歴史的に古いお社です。福祿寿は福德長寿の神、また弁財天は営業隆昌、学芸成就の神として、親しまれています。
- ②**茶の木神社(布袋尊)**・周囲の茶の木が名の由来となった神社。布袋尊は福德円満の神として広く信じられています！
昔この地は三千坪に及ぶ佐倉城主の堀田家の中屋敷があった所で、この神社はその守護神として祀られていましたが佐倉城主の屋敷内はもとより、町方にも火災がなかったことで、火伏の神とも崇められています。三千坪というと縦・横 100m にもなります、広いですね。ちなみに、堀田家の下屋敷は広尾に、藩主の住む上屋敷はもっと江戸城に近い所にあります。
- ③**松島神社(大国神)**・創建は不詳ですが、口伝によると鎌倉時代の元享(1321)以前と推定されます。昔この辺りが入り海であった頃、小島があり諸神を勧請し夜毎揚げる灯火を目標に、船人が航海の安全を願ったと伝えられます。島内には松の木が多かったところから松島神社と呼ばれました。大名屋敷を造営するため地方から集まった人々が故郷の神様を祀ったところから大黒様をはじめ 14 柱と多くの神様を祀っています。
- ④**水天宮(弁財天)**・御像は運慶の作と伝えられ、芸事や学業貨殖に靈驗あらたかといわれています。現在建替工事のため約 4 年仮宮に移転しており、移転した水天宮へ参ったことのない方は必見！
水天宮は安産・子育ての神様として有名ですが、下見時は初宮参りの人で賑わっていました。
- ⑤**笠間稲荷神社(寿老神)**・江戸時代末期、笠間藩主が日本三大稲荷の一つの常陸笠間神社の御分霊を江戸下屋敷(当地)に奉斎したのが始まり。五穀をはじめ水産、殖産の守護神として信仰されてきました。寿老人は長寿の神にして、お導きの神、幸運の神として、人々の運命を開拓して下さる福德長寿の守護神とされています。
日本三大稲荷：伏見稲荷(京都)以外の 2 社は場所により異なり、豊川稲荷(愛知)、笠間稲荷(茨城)最上稲荷(岡山)、祐徳稲荷(佐賀)のどれかです。
- ⑥**末廣神社(毘沙門天)**・末廣神社は倉稲魂命(うかたまのみこと)を主祭神として、多聞天の異名を持つ毘沙門天は、世界の守護神であり、又、福德を授ける神ともされています。
末廣神社は江戸時代初期に吉原の遊郭(当時は葎原)があった当時、産土神として信仰されていました。明暦の大火後、浅草寺裏の日本堤に移転し、それ以後は元吉原と呼ばれます。延宝三年の社殿修復の際に末広扇が見つかったことから末廣神社と名付けられました。
- ⑦**相森神社(恵比寿神)**・聖徳太子がはじめて市を立てた際、恵比寿神を市の守護神として仰ぎ、商売の神、福德の神とあがめたことに由来します。社伝によれば、相森神社は平将門の乱の平定を願う藤原秀郷が戦勝祈願をした所と言われています。また、太田道灌が篤く信仰したと言われ、江戸時代には烏森、柳森と合わせて三森の一つとして庶民の信仰を集めました。また、ここは江戸三富の一つと数えられる程多くの富籤が行われ、境内には富塚が立てられ今日では宝くじの元祖として当籤祈願をしているようです。
- ⑧**寶田恵比寿神社(恵比寿神)**・売繁昌、家族繁栄、火防(ひぶせ)の守護神とされていて日本橋七福神、恵比寿神が祀られている神社。毎年秋には神社付近で「べったら市」が開催され、約 10 万人の人出でにぎわいます。
宝田神社は江戸城外の宝田村の鎮守でしたが、慶長十一年に宝田、祝田、千代田の三か村と共にこの地に移って来たものです。

■十思公園(じっしこうえん)

地下鉄小伝馬町駅の北西、徒歩2分。江戸時代には有名な伝馬町の牢屋があったところで、現在は小さな広場の公園になっている。

安政の大獄で牢送りとなった吉田松陰はこの地で処刑された。園内には吉田松陰終焉之地碑や吉田松陰顕彰碑、辞世の碑など吉田松陰に関する碑が立っている。

また、園内には江戸時代に時を知らせた鐘が、石町(現在の日本橋室町)から移されている。「石町時の鐘」は江戸で最古のものであるが、火災などで破損し、現在の鐘は宝永8年(1711年)に改鋳されたものである。

□伝馬町牢屋敷跡

伝馬町牢屋敷は、江戸時代、全国最大の牢屋でした。天正年間(1573年～1591年)、常盤橋門外に置かれたのが最初で、延宝5年(1677年)にこの地に移され、江戸町奉行の支配となりました。明治8年(1875年)、市ヶ谷囚獄ができて廃止され、牢屋敷跡は十思公園・村雲別院・大安楽寺などになっています。

□吉田松陰終焉之地

幕末の長州藩士・吉田松陰は、幕府の条約調印に関して閣老間部詮勝の襲撃を謀ったとして捕らえられ、安政6年(1859年)、現在の小伝馬町にあった牢屋敷で処刑されました。松陰は、兵学、洋学に通じ、また萩に「松下村塾」を開いたことでも有名で、木戸孝允、前原一誠、高杉晋作、久坂玄瑞、伊東博文、品川弥次郎らをそこから輩出しました。

□石町時の鐘

江戸時代には鐘について人々に時刻を報せていました。この鐘は、石町(現在の日本橋室町4丁目付近)にあったもので、近くに長崎屋があったため、「石町の鐘はオランダまで聞こえ」の川柳があります。宝永8年(1711年)に鋳直したもので、(徳川家宣時代)高さ1.7メートル、口径93センチの和鐘です。現在は、十思公園に鐘楼を、設けて納めてあります。)

□杵屋勝三郎歴代記念碑

「杵屋」は江戸長唄三味線の家名。初代は、天保年間(1830年～1844年)に武家から出て、一派を創始、二代目が最も著名で、「船弁慶」「連獅子」「時雨西行」「安達ヶ原」などの名曲を残しました。二代目が十思公園に近い馬喰町に住んでいた縁故で碑が建てられました。

■小津和紙

小津和紙(おづわし、英: OZUWASHI)は、東京都中央区に本社を置く株式会社小津商店が運営する和紙部門である。

1653年創業・東京日本橋の和紙専門店。和紙店舗、小津史料館、小津ギャラリー、小津文化教室の4部門で構成。和紙店舗は版画・日本画・油絵・書道・押花・インクジェット・インテリア・その他工芸向けの和紙類から和の小物類まで取り揃えている。(なお2014年秋ごろまで、ビル免震化工事に伴って仮店舗営業中である。)

■熙代勝覧(きだいしょうらん)の複製絵巻

「三越前」駅地下コンコース壁面に熙代勝覧の複製絵巻が展示されています。

「熙代勝覧」絵巻とは、文化2年(1805年)頃の日本橋から今川橋までの大通り(現在の中央通り)を東側から俯瞰し、江戸時代の町人文化を克明に描いた貴重な絵巻物(作者不明)で、原画はベルリン国立アジア美術館に所蔵されています。今回の複製絵巻の設置により、日本でも「熙代勝覧」を鑑賞することが可能になりました。

以上